

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 25 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24520049

研究課題名(和文)近代日本の画像メディアにおける「喇嘛教」表象の研究

研究課題名(英文)A Study of Japanese Presentation of Lamaism in Modern Media

研究代表者

高本 康子 (KOMOTO, Yasuko)

北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・地域比較共同研究員

研究者番号：90431543

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究における成果としては、以下4点が挙げられる。
1.資料の集約と整理。特にデジタル検索の範囲外にある非公開資料について作業を進めた。2.画像およびその周辺資料の活用。歴史研究以外の複数分野への幅広い活用を試みた。3.専門家以外の一般社会への成果還元。テレビ・ドキュメンタリーへの協力、児童生徒向け図書の執筆などによって、特に、資料提供に協力を仰いだ各地域への成果還元に努めた。4.今後の研究に繋がるリソースの確保。中でも、資料調査に関連する人的連繋の形成と維持に成功したことは、今後の研究にとって最も有益である。

研究成果の概要(英文)：This study focused on Japanese presentation of Lamaism in modern media, to cast some useful lights on the state of Japanese contacts with different cultures in modern Japan. The research results are as follows;
1.Examination and organization of materials relating Lamaism, especially not-opened to the public.2. Presentation of possibility to use and apply of materials to several different fields.3. Presentation of research results not only in academic scene but also to the public, as TV documentary programs, lectures at museums, book for young generation.4.Formation useful resources for extensive research from now on.

研究分野：東アジア近代史

キーワード：近代 日本 喇嘛教 チベット 表象 大陸 宗教 満洲

1. 研究開始当初の背景

本研究は、先行する「戦時期メディアにおける「喇嘛教」表象に関する研究」(挑戦的萌芽研究、2010-2011年度、研究代表者高本康子、以下「高本先行科研」)の成果を基礎として展開されたものである。高本先行科研においては、日中十五年戦争開戦前後から第二次世界大戦終戦までの約15年間の、主に日本国内のメディア上に出現した画像情報について、資料の収集と調査分析を行った。

「喇嘛教」すなわちチベット仏教に関連する諸研究においては、戦前は仏教学、歴史学、戦後はそれに言語学、文化人類学が加わって、優れた成果が蓄積されてきた。しかし、高本先行科研および本研究がその分析対象とする、日本人が持つ「喇嘛教」イメージ、および日本国内に残されたチベット関連資料への注目は、非常に限定的なものであった。多くの場合前者に関しては日本人が持つイメージの「偏向」、後者に関しては日本に請来されたチベット大蔵経及びそれに関連する資料という文脈でのみ言及されるにすぎなかった。特に前者に関して、欧米においては既に1990年代から優れた研究が連続して出現し、現在においてもチベット研究の外郭の一部に属するプレゼンスを獲得していることを考えると、日本における状況は、それと非常に対照的なものと言える。しかし、高本先行科研と同時期に、その状況に変化が見られた。例えば前者に関しては、文化人類学からアプローチを試みる村上大輔、また後者に関しては、チベット近代史研究の小林亮介による論考のような考察が出現した。

本研究はそのような研究動向を見据えつつ、高本先行科研の研究活動において直面した課題に取り組もうとしたものである。最大の課題は、調査研究の対象を、日本人大多数に共有される新聞・雑誌・映画等のマスメディアに限定せず、非公開の個人資料へ拡大するというものであった。それには以下2点の

理由が挙げられる。メディアとしての個人資料のプレゼンスへの注目。高本先行科研においては主に、マスメディアを対象とした。しかし当時、異文化を被写体とした画像と日本人がコンタクトを持つ状況は、当然のことながら、これらマスメディア由来のものに限定されてはいない。本研究が注目したのは、個人撮影の写真や個人が作成したスケッチによる接触である。これらの写真やスケッチは、家族や友人・知人、関係者間で相互に閲覧され、交換・共有されていた。従って本研究は、これら個人による写真・スケッチ等も、当時の重要な情報メディアの一つとして考える必要がある考え、調査研究を進めた。画像とその周辺資料との連関への注目。高本先行科研においては、当初収集予定にはなかった、満洲国行政当局による宗教関係調査の報告書等の現在まで知られていなかった資料、および当事者の草稿や書簡、日記、現地限定された範囲で出版・配布・共有された印刷物等、個人所有にかかる未公開資料を多数入手した。表象としての画像を考えるには、これらの諸資料を、画像をその一部とする有機的連関を持つ存在として捉えた上で、その意味を読み取る作業が必要と考えられる。本研究はその点に注目し、画像をとりまく時代状況についても、より精密に把握する調査・考察を試みた。戦時中の「喇嘛教」工作の詳細についての解明は、このような経緯で実施した調査研究の一部である。

2. 研究の目的

本研究は、近代日本における異文化表象のありようを、「喇嘛教」に注目して明らかにするため、基礎的な資料として、次項に述べる～の資料群を主な対象とし、その調査分析を行うことを目的とした。但し本研究の進展によって～については、所有個人宅の建て替えや遺品整理等のため、資料が失われる最後の画期が来ていることが明らかとなっ

た。そのため特に、 の資料の情報集約と資料の保護・整理を、他の作業より優先する方針をとった。

3. 研究の方法

本研究においては、明治維新前後から第二次世界大戦終戦前後まで、すなわち 1860 年代から 1950 年代にかけての約 90 年間について、「喇嘛教」関連画像資料およびその関連資料の集積と整理・分析を行った。対象とした資料は以下 3 種に大別される。

「大陸」情報および「宗教」情報の掲載がある新聞・雑誌・書籍等。

初等・中等教育用教材。教科書に加え、地図教材、教師用指導書等も含める。ともに、「大陸」現地で発行・使用されたものを含め調査収集を行った。

非公開個人資料。チベット仏教および「大陸」にかかわった日本人の遺品、文献・写真資料コレクション等が含まれる。

4. 研究成果

本研究の研究成果には、以下 4 点がある。

(1) 資料の集約と整理

資料 に関しては、予定した国内発行の資料群の他、「大陸」現地、例えば満洲国興安北省でチベット仏教僧向けに発行されていた雑誌や、モンゴル地区で使用されていたモンゴル語文教材等も調査収集することができた。それらに加え、本研究において最も重要と考えられる成果は、資料 にかかわるものである。現在各国で資料のデジタルデータ化が進められているが、これら個人資料、少なくとも本研究が取り上げた個人資料の大部分は、そのような対象の範囲外にある。従って資料 の集約・保護・整理は、特に今日的意義を持つと思われる。以下、この範疇に属する主な資料について述べる。

多田等観関連資料。多田は、大正初期から約 10 年間、チベットの名門寺院で修学した

経験を持つ。本研究においては、その遺品約 2000 点の調査・整理を行った。これらを活用した伝記および資料集を出版予定である。

寺本婉雅関連資料。寺本は、ダライラマ 13 世やその周辺と日本人として最初に接触し、帰国後は「大陸」で活躍する人材を育てた。その遺品約 300 点を整理・調査した。資料集および日記翻刻を出版予定である。

明治以降現代までの「大陸」関係書籍の個人蔵・機関蔵コレクション。複数件のコレクション、計 4000 点余の調査・整理を行った。資料の一部は資料集として刊行予定である。

(2) 画像およびその周辺資料の活用

まず、画像資料そのものの活用について、チベット仏教に全くもしくはほとんど言及されることのなかったトピック・分野において、本研究資料を活かした考察を行ったことが挙げられる。これは結果として、「喇嘛教」関連画像の分析が、歴史学やチベット関連研究に限られず、より広範な研究フィールドと連携していく可能性を示すものとなったと言える。スウェーデンの地理学者スヴェン・ヘディンを軸とした分析では地理学と、近代アジアの「聖者」を考える試みでは宗教学との連繋においてこのような活用を試みた。

また、当事者の日記・書簡や「大陸」現地機関の内部資料等、画像の周辺資料については、特に「喇嘛教」工作と呼ばれる日本人の活動、すなわち、日本陸軍・外務省その他機関によるチベット仏教側への働きかけの詳細を、一部ではあるが明らかにしつつあることが挙げられる。これについては、先行研究のうち最も優れた成果をおさめているオーストラリア国立大学のリ・ナランゴア教授との連繋を進め、共著を予定している。

(3) 専門家以外の一般社会への成果還元

本研究においては、研究成果を専門家以外に広く発信することに注意した。特に、資料提供に協力を仰いだ地元社会に、成果を還元することに努めた。例えば、秋田テレビによ

る多田等観ドキュメンタリーへの制作協力・出演、滋賀県の児童向け青木文教伝記の執筆は、そのような取り組みの一つである。

(4)今後の研究に繋がるリソースの確保

本研究においては高本先行科研で獲得した人的連繫を活用し、更に広い範囲の連絡関係を形成・維持することができた。この中には、研究諸機関だけではなく、大陸からの帰国者家族で組織されるものなど、民間諸団体とのそれが多く含まれる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計28件）

高本康子、三宅伸一郎「寺本婉雅に関する「宗林寺資料」「村岡家資料」に対する総合的評価」『真宗総合研究所紀要』第34号、査読有、2017年（掲載決定）

高本康子「寺本婉雅『葦蒙旅日記』と横地祥原」『石峯』第22号、査読無、2017年、17-26頁

高本康子「画像資料に見る日本人と「熱河」「大東亜」世界における「喇嘛教」空間」『アジア仏教美術全集』チベット巻、査読無、査読無、2017年（印刷中）

高本康子「文明を目指した菩薩 大谷光瑞に関する一試論」『論集』第43号、査読有、2017年（掲載決定）

高本康子「【研究ノート】石原莞爾と多田等観「喇嘛教」との関わりをめぐる」『日本仏教総合研究』第15号、査読有、2017年（掲載決定）

高本康子「「大同」と「理解」 中支宗教大同連盟関係資料に見る「大陸」と日本人」『日本仏教団の宣撫工作と大陸』第3集、龍溪書舎、査読無、2017年（印刷中）

高本康子「海闊天空 「五台山」以後の寺本婉雅」荒川正晴、柴田幹夫編『シルクロードと近代日本の邂逅』勉誠出版、査読無、2016年、501-521頁

高本康子「大谷探検隊研究の現在」『近代

仏教』第23号、査読有、2016年、144-152頁

高本康子「木村肥佐生「日誌」について」『石峯』第21号、査読無、2016年、1-13頁

高本康子「寺本婉雅「喇嘛教」工作案に見る戦時下日本と「喇嘛教」」『論集』第42号、査読有、2015年、56-42頁

高本康子「入蔵者と「戦争」 時輪金剛仏曼陀羅廟建立をめぐる」『印度学仏教学研究』第64号、査読有、2015年、1029-1034頁

高本康子「不可視の「チベット」、可視の「チベット」 ヨーロッパと日本におけるチベット・イメージ」『国立民族学博物館研究報告』第40号、査読有、2015年、253-266頁

高本康子「【講演録】日本仏教と「チベット」 近代日本人が見た「大陸」の異文化」『龍谷史壇』第139号、査読無、2015年、41-59頁

高本康子「ヘディンの来日 近代日本とヘディンとチベット」白須浄真編『大谷光瑞とスヴェン・ヘディン』勉誠出版、査読無、2014年、123-144頁

高本康子「寺本婉雅関連資料の現在 寺本家資料を中心に」『論集』41号、査読有、2014年、21-35頁

高本康子「ラッサからの道 青木文教、多田等観の生涯」『チベットの仏教世界』龍谷大学龍谷ミュージアム編・刊行、査読無、2014年、172-179頁

高本康子「多田等観日記に見る真言宗と「喇嘛教」 満洲国建国前後を中心に」『密教文化』233号、査読有、2014年、101-116頁

高本康子「寺本婉雅の大陸人脈 大谷大学所管資料を中心に」『印度学仏教学研究』第63巻、査読有、2014年、528-532頁

高本康子「【研究ノート】日本人仏教者と

「喇嘛教」』『日本仏教総合研究』12号、
査読有、2014年、93-109頁

高本康子「戦時期日本人の「喇嘛教」認識
「廟会」」関連資料を中心に』『日本
チベット学会会報』第60号、査読有、2014
年、123-133頁

⑲高本康子「戦時期大陸関連画像に見る「大
東亜」の宗教 富士倉庫資料を中心に」
『論集』第40号、査読有、2013年、114-124
頁

⑳高本康子「戦時期満洲国における「時輪金
剛仏曼陀羅廟」建立について」『密教文化』
第229号、査読有、2013年、99-116頁

㉑高本康子「大陸における対「喇嘛教」活動
寺本婉雅を中心に」『論集』第39号、
査読有、2013年、103-116頁

㉒高本康子「戦時下の「能海寛」』『石峯』
第18号、査読無、2013年、55-62頁

㉓高本康子「大谷探検隊入蔵者資料と最近の
研究成果」『アジア遊学』第156号、査読
無、2012年、128-129頁

㉔高本康子「大谷探検隊入蔵者資料と最近の
研究成果」『アジア遊学』第156号、査読
無、2012年、128-129頁

㉕高本康子「日本人入蔵僧資料に見る戦時期
「喇嘛教」工作と熱河承德」『印度学仏教
学研究』第61巻、査読有、2012年、513-518
頁

㉖高本康子、三宅伸一郎「寺本婉雅日記『新
旧年月事記』翻刻」『真宗総合研究所紀要』
第31号、査読有、2012年、143-186頁

〔学会発表〕（計25件）

高本康子「大谷探検隊関連研究の現在」龍
谷大学アジア仏教文化研究センター大谷
光瑞師研究班研究会、2017年2月24日、
龍谷大学（京都府京都市）

高本康子「近代日本人と「ヘディン」」京
都大学文学研究科・文学部シンポジウム
「近代日本における学術と芸術の邂逅

ヘディンのチベット探検と京都帝国大学
訪問」2016年12月3日、京都大学（京
都府京都市）

高本康子「石原莞爾と「大陸」の宗教 チ
ベット仏教とのかかわりを中心に」密教
研究会平成28年度学術大会、2016年7月
29日、高野山大学（和歌山県高野町）

高本康子「石原莞爾と「喇嘛教」 満洲国
における仏教施策を中心に」日本近代仏
教史研究会第24回研究大会、2016年6月
4日、立正大学（東京都品川区）

高本康子「入蔵者と「戦争」 満洲国時輪
金剛仏曼陀羅廟建立をめぐる」日本印
度学仏教学会第66回学術大会、2015年9
月19日、高野山大学（和歌山県高野町）

高本康子「政治利用される聖者 満洲にお
ける活仏転生工作」日本宗教学会第74
回学術大会第14部会パネル「アジアにお
ける聖者信仰の諸相」2015年9月6日、創
価大学（東京都八王子市）

高本康子「真言宗と「喇嘛教」 岩鶴密雲
を中心に」平成27年度密教研究会学術
大会、2015年7月11日、高野山大学（和
歌山県高野町）

高本康子「寺本婉雅新出資料について 日
記類を中心に」印度学宗教学会第57回
学術大会、2015年5月30日、東北大学（宮
城県仙台市）

高本康子「寺本婉雅の大陸人脈 大谷大学
所管資料を中心に」日本印度学仏教学会
第65回学術大会、2014年08月31日、武
蔵野大学（東京都西東京市）

高本康子「多田等観と真言宗 多田家所蔵
資料を中心に」平成26年度密教研究会
学術大会、2014年07月12日、高野山大学
（和歌山県高野町）

高本康子「戦時期日本の「喇嘛教」工作」
日本近代仏教史研究会大会2014年05月10
日、駒澤大学（東京都世田谷区）

高本康子「近代日本人と「喇嘛教」」第二

回神智学研究会「近代と仏教」研究会、2014年02月01日、龍谷大学（京都府京都市）

高本康子「戦時期日本の「喇嘛教」関連画像」「チベット美術の情報プラットフォームの構築と公開」研究会、2013年11月24日、東京大学（東京都文京区）

高本康子「戦時期日本におけるチベット仏教関連画像」日本チベット学会第61回大会、2013年11月17日、高野山大学（和歌山県高野町）

高本康子「近代日本人と「喇嘛教」」日本宗教史懇話会サマーセミナー、2013年08月27日、ハートピア熱海（静岡県熱海市）

高本康子「戦時下日本仏教と「喇嘛教」儀礼 パンチェンラマによる杭州「時輪金剛法会」をめぐって」平成25年度密教研究会学術大会、2013年07月13日、高野山大学（和歌山県高野町）

高本康子「戦時期画像資料に見る「喇嘛教」満洲関連写真を中心に」印度学宗教学会第55回学術大会、2013年06月02日、駒澤大学（東京都世田谷区）

高本康子「日本人と「喇嘛教」 満洲国における「喇嘛教」工作を中心に」北海道大学スラブ研究センター新学術第4班研究会「戦時期日本の喇嘛教・回教工作」2012年12月01日、東京理科大学（東京都新宿区）

高本康子「大陸における対「喇嘛教」活動 満洲国興安北省を中心に」2012年度内陸アジア史学会大会、2012年11月04日、北海道大学（北海道札幌市）

高本康子「近代日本人と熱河・承德」金沢大学国際文化資源学研究センターシンポジウム「チベット美術の現在・過去・未来」2012年08月25日、石川県立歴史博物館（石川県金沢市）

②①高本康子「日本人と「大陸」世界 満鉄映画に見る「喇嘛教」表象」北海道大学スラブ研究センター新学術第6班研究会「戦

争のメモリー・スケープ」2012年7月15日、北海道大学（北海道札幌市）

②②高本康子「日本人入蔵僧資料に見る戦時期「喇嘛教」工作と熱河承德 多田等観関連資料を中心に」日本印度学仏教学会第63回学術大会、2012年7月01日、鶴見大学（神奈川県横浜市）

②③高本康子「戦時期満洲国における「時輪金剛仏曼陀羅廟」建立について」平成24年度密教研究会学術大会、2012年06月08日、高野山大学（和歌山県高野町）

②④高本康子「大陸における対「喇嘛教」活動 寺本婉雅を中心に」印度学宗教学会第54回学術大会、2012年06月02日、東北福祉大学（宮城県仙台市）

②⑤高本康子「日本仏教と「喇嘛教」 近代日本人が見た大陸の異文化」龍谷大学史学会大会、2012年05月28日、龍谷大学（京都府京都市）

〔図書〕（計3件）

高本康子編『寺本婉雅日記集成』芙蓉書房出版、2017年（発行決定）

高本康子『風のかなたのラサ』自照社、2017年（印刷中）

高本康子『ラサ憧憬 青木文教とチベット』芙蓉書房出版、2014年、281頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高本 康子（KOMOTO, Yasuko）

北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・地域比較共同研究員

研究者番号：90431543